

# 久斗山地区公民館だより



令和8年  
3月号

2月26日発行

久斗山地区公民館

**【ご挨拶】** 2月6日から22日までの期間、伊阿のミナ・コリキで開催された2026冬期杯では、日本勢はめざましい活躍を打ち立てました。獲得メダル数は22個(19日現在)となり、冬期の史上最多を記録しました。デュアルゴールなど、今回から新種目となった競技や各種入賞など、若いアスリートの超人的な演技が連日テレビで放映され、全国民が魅了されました。特に感動的だったのは、アイススケートのペアで、ショートプログラムミスで5位だったのが次の日のフリーで最高得点を出して金メダルに輝いた「りくりゅう」のペアでした。本当に素晴らしかったです。大雪に見舞われた日本列島、今月は雪の話題ばかりですが、春はそこまで来ています。

**【冬将軍、居座る！】** 1月21日から1週間以上、日本の上空に居座った強い寒波は日本海側に大雪をもたらしました。2月の節分、立春を過ぎて少し緩んだものの、8日の日曜日には日中で数十cm積るドカ雪を降らしました。積った雪は1mを超え、道路は連日の除雪作業のおかげで車の通行は支障ないものの、路肩には高い雪の壁ができ、ローリーの除雪車で吹き飛ばしてもらいました。冬に雪が降るのは当たり前ですが、大雪は困ります。もうこのくらいで春になって欲しい。



路肩に雪が盛れ、ショベルカーではこれ以上持って行けなくなったので、ローリー車で吹き飛ばす (令和8年1月26日)

**【雪上は動物の足跡がいっぱい！】**  
大雪の次の週末、2月14日は暖かいい天気になり、「動物のあしあとさがしと雪上ハイク」を無事に開催できました。3歳の幼児から70代まで幅広い年齢の参加者33人が、雪多い久斗山で一日を楽しく過ごしました。最初に冬の動物やかんじきの付け方を説明し、さっそくかんじきを装着、まずは積雪が1m近くあるグラウンドを歩き、そのまま町道へと出て、雪上の動物の足跡を観察しました。たわんだ竹の葉を食べに出てきたシカの足跡だらけです。1時間ほど野山を歩き回り、昼前に公民館に帰ってきてお昼の準備です。メニューはシカ肉の焼き肉丼と豚汁です。クシに刺したシカケバブの差し入れもあり、ご飯が炊けるのが遅くて空腹の限界だったお腹に、お肉の美味しさが染みわたりました。日差しが暖かく、少し春が感じられました。



シカ肉のケバブ

シカ肉のロースを炭火で焼く



**【大雪でも国政選挙】**

1月27日に公示、2月8日に投票となった第51回衆議院議員選挙ですが、投票日当日は大雪警報が発令され、朝は40cmの積雪があり、日中も雪が降り続きました。町内の投票所の開始は1時間繰り下げられ、終了も繰り上げられました。当公民館の体育館に設けられた第9投票所は除雪が間に合わず、人が通れる程度に雪かきがされていましたが、入口の戸は閉ざされ、足の悪い人は来るのも困難な状態でした。結果は自民党が圧勝しましたが、雪国の投票率は3~4割減という異例の選挙でした。



**【屋根からの落雪注意！】**

大雪になった今シーズン、屋根にはまだ多くの雪が載っています。2月半ばから気温が上がり、暖かい日が続くようになって、雪も緩んできています。屋根からの落雪で、家の軒先に引き込んでいるテレビなどの配線が切断したり、ずり落ちた雪が下にいた人に当たって怪我をする事故が起きています。固く絞まった雪は重く、雪と一緒に瓦が落ちてくることもあるので、軒下を通る時は十分に気をつけてください。



**【雪の中の罾猫、やっと獲物がかかる】**

雪が積るとくくり罾での狩猟は難しくなります。罾を雪で隠していても、雪が溶けて罾が丸見えになっていることも度々あります。夜中、氷点下になると凍結してバネが効かなくなります。その反面、動物の足跡は雪にしっかり残り、行動を推測しやすくなります。2月13日、雪の中に罾を4個仕掛けました。3日目の朝、小雨が降っていましたが罾を見回ると牝ジカがかかっていた。雪の利点をもう一つ、獲物の搬送にソリが使えます。



**【なぞの動物発見！？実は病気の狸】**

先月ごろから公民館周辺で毛がほとんど無い謎の動物が目撃されています。その正体は疥癬という皮膚病に罹ったタヌキです。疥癬症はヒゼンダニという皮膚に棲むダニが原因でおこる病気で、犬や猫、人間にもうつります。寒い冬に毛が抜け、普通なら衰弱して死ぬはずが落ちた柿などを食べてかろうじて生きています。注意してください！



**○令和8年 3月の行事**

- 7日(土) 「春を待つ山の生き物を探そう」 (13:30~15:30 うわのふれあいの森倶楽部)
- 8日(日) 「上山高原の自然研修会(モニタリング報告会)」 (13:30~16:00 上山高原エコミュージアム)
- 15日(日) 久斗山自然教室「早春の里山、早起き生き物さがし」 (9:00~12:00 久斗山地区公民館)
- 19日(木) 新温泉町内小学校 卒業式
- 22日(日) 久斗山区 総会



才能も、年齢も、身体能力も、このコートでは関係ない

B&G財団会長杯  
**ポッチャ交流大会**

定員：20チーム  
持ち物：体育館シューズ・飲み物  
ルール：公式ルールに加え、新温泉町独自のルールを採用  
その他：写真をSNS等に掲載する可能性があります  
参加費：無料

2026年3月20日(金・祝)  
8:20~12:00  
浜坂体育センター

新温泉町教育委員会  
申込締切期：3月6日(金)17:00まで  
申し込みは  
新温泉町 2073-1 TEL:02-5629-5555



**エサキモンキツノカメムシ**  
成虫で樹皮下などに越冬している。背に黄色のハートがついている。

四季の久斗山生物だより  
エサキモンキツノカメムシ (カメムシ類)

昆虫が冬越しする姿は様々ですが、カメムシの仲間はおもに成虫で越冬します。家の中に入り込んでくる嫌なやつもいますが、朽ち木の穴や樹皮の間に入り、脚を縮めてじっと春を待ちます。このカメムシは肩にツノがあり、背にハート型の斑紋があるので注目されます。でも、他のカメムシ同様、臭い匂いを出すので要注意！

**かちぎれ耳の昔話 第十一話**  
作、いっこう

春は水辺から訪れます。猫柳の芽が大きくなり、猫の目草やかたばみ、白金草が花をつけ、川土手では露のとうが顔を出します。ちぎれ耳は谷川のそばで早春の緑を味わっていた時です。対岸から二頭の茶色の犬が現れ、素早く走って川を渡って近づいてくると、牙を剥き、吠え立ててきました。ちぎれ耳は頭を上げ、咄嗟に逃げようと踏み出した時です。少し離れた場所では「ほん」と、冬場に雪の重みでたわんだ竹が割れるような音が響きました。その瞬間、右側の耳が半分吹き飛んだのです。驚きと痛みで、本能的に一瞬でただ事ではないと判断したちぎれ耳は、音のした方より反対へと全力で逃げました。再び同じ音がしましたが、その時はすでにその場からかなり離れていました。二頭の犬はしばらく追ってきたのですが、山に慣れたちぎれ耳の足の方がずっと早く、やがて諦めて追ってこなくなりました。半分になった耳からはしばらく出血していましたが、野生動物の血は固るのが早く、すでに傷は塞がっていました。それ以来、ちぎれ耳として生きるようになったのです。

幾年か経て、ちぎれ耳は多くの危険に遭遇しながら経験を積みました。あの時、自分の耳を吹き飛ばしたのは犬が追い立てる先という隠れた人間が持つ鉄砲だとい筒から放たれた鉄の飛礫だ。知りませんでした。そんな人間は、秋の終わりに春先にかけて、犬と共に動物を鉄砲で撃ち殺し、獲物を持ち帰ることもありますが、谷川で皮を剥ぎ、肉の一部を得ると内蔵や残骸は放置され、鴉や小動物がつかいばみましました(つづく)